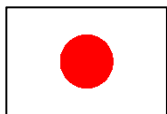


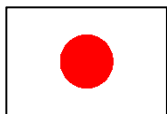
山本大臣閣議後会見

平成25年5月28日



=日加官民宇宙合同協議を開催=

- 2012年3月、宇宙協力の促進に関する協力文書署名。
(宇宙政策担当大臣、文科大臣、加国際貿易大臣。)
- 内閣府宇宙戦略室とカナダ宇宙庁(CSA)が共同議長となる日加宇宙合同会議の開催を決定。



これまでの主な宇宙協力 (JAXA-CSA)

国際宇宙ステーション(ISS)における協力

- ・日本は、きぼう(JEM)での実験等(利用権12.8%)。
- ・カナダはロボットアームを設置(利用権2.3%)。
- ・カナダのロボットアームが日本HTVのISSへのドッキングを支援。

国際災害チャータ

- ・2011年、東日本大震災時等にRADARSAT-2の緊急観測を実施。

宇宙科学協力

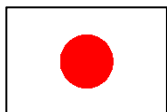
- ・2011年、X線天文衛星(ASTRO-H)に係る覚書(MOU)締結。

JAXA 提供



JAXA 提供



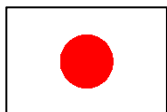


今回の官民宇宙合同訪加ミッションの概要

1. 日程 : 2013年4月28日 ~ 5月3日

2. 参加機関名 (総勢22名)

内閣府宇宙戦略室、経済産業省、在加日本大使館、宇宙航空研究開発機構 (JAXA)、日本航空宇宙工業会 (SJAC)、三菱電機、三菱重工、IHI、IHIエアロスペース、日立製作所、日本電気、富士通、住友商事、三菱商事 (9社)



今回の宇宙ミッションの主な成果

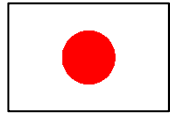
1. 宇宙防災協力の決定

日本のALOSとカナダのRADAR-SAT1,2を活用した
災害監視に係る覚書を締結。

2. 政府対話、ビジネスラウンドテーブルの開催及び 企業訪問

(訪問先企業)

MDA社(ペイロード、アンテナ等)、Telesat社(通信)、
NEPTEC社(コンポーネント)、Com Dev社(トランスポン
ダー)



カナダのRADAR-SATコンステレーション (RCM)の概要



RADAR-SAT 1、2は各1機で、広大な国土を毎日観測不可。

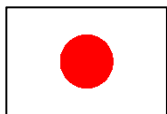
開発中のRADAR-SATコンステレーション(RCM)は、3機を同時に開発・運用し、カナダ全体を毎日観測可能。

船舶安全航行のための冰山等の海洋監視(MDA)が目的。

不審船の監視等のための船舶自動識別システム(AIS)も搭載。

我が国の今後のリモートセンシング衛星整備(ASEAN防災ネットワーク構築構想)に大いに参考になる事例。





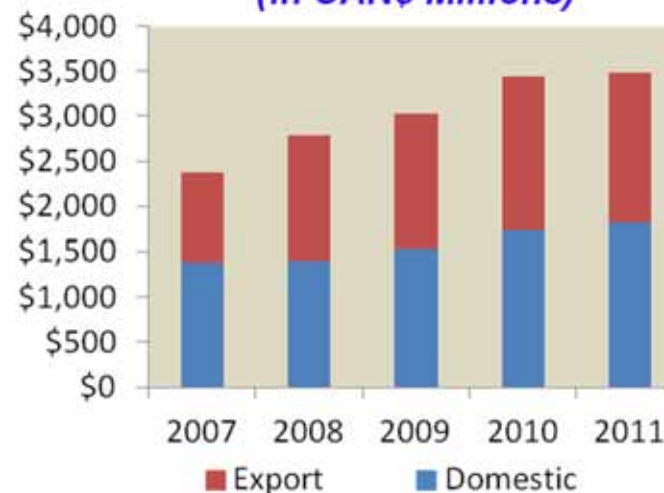
カナダの宇宙産業の概要

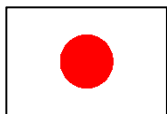
カナダの宇宙産業は売上に占める輸出比率が高く(約50%)、企業買収も熱心。

- カナダ宇宙庁の予算は約300億/年。宇宙産業の売上はその10倍の3000億円。民需・外需の比率が高い。
- 加衛星メーカーMDA社が米衛星メーカーSpace Systems/Loral社を買収(2012年6月):三菱電機の売り上げ規模の約2倍へ。
- 加Black Bridge社が独Rapid Eye社を買収(2011年8月)。

国内官需依存90%の我が国の宇宙産業にとっても学ぶべき点が多い。

*Revenues: Domestic vs. Export
(in CAN\$ Millions)*





= 今後の日加宇宙協力 =

- ✓ 今後、政府レベルの協力と企業レベルの協力を一体的に推進していく方針